

高知県遺族会

遺族大会に参加して

高知市 掛水 万亀

平成29年7月16日、私は初めて高知県遺族大会に参加させていただきました。

遺族会高齢者表彰で、大正6年生まれの方が娘さんに支えられながら壇上にあがる姿を拝見して、『ご苦労の多い年月だったのだろうなあ。』と思いつつ、今は亡き祖母のことを思い出していました。

今年、9月には祖母の27回忌を迎えます。居間の真正面に掲げた、笑顔の祖母と軍服姿の若い祖父の写真が、いつも家族を見守ってくれています。

大正6年12月生まれの祖母は、祖父と4歳の長男のもとへ後妻として嫁ぎました。祖父との間に、長女、次男、三男と子宝に恵まれます。

しかし、祖父は三男が生まれて17日目に赤紙召集を受け出兵、20年5月に沖繩戦で戦死を遂げたため、祖母は29歳で未亡人となりました。

その当時は楮(こうぞ)やみつまたの和紙の原料を出荷するのが、唯一の現金収入で、幼い4人の子供たちに食べさせるため、夜も昼も働いたそうです。私の父も、家計を助けるため山仕事などで日銭をかせぎ、学校にはあまり行けなかったようです。

私が小学生の頃、よく祖母の家に泊まりに行きました。そのころ祖母は豆腐作りの仕事をしていましたので、朝は3時頃起きて作業します。私も5時頃に起きてかまどの火の番を手伝い、そのご褒美に一杯だけ三温糖入りの豆乳を飲ませてくれます。

朝8時頃には、盃にてんこ盛りのご飯を仏壇に供えてから、遅く起きてきた孫たちと一緒に、じゃがいもと卵入りのお味噌汁を食べさせてくれました。夜は毎晩、仏壇にろう

そくを灯しその火が消えるまで、お経を唱えていました。

あまり苦労話をしない、涙もみせない強い祖母でした。

終戦から72年、8月15日の終戦記念日に天皇陛下様が述べられたお言葉を讀んだとき、涙がこぼれました。

先の大戦においてかけがえない命を失った数多くの人々と、その遺族の深い悲しみを忘れてはならないこと。

今日の平和と繁栄が先人の犠牲によって築き上げられていること。

これらを肝に銘じ、戦争の惨禍が再び繰り返されることのないよう、祖父の戦没追悼を、後世に伝えることが私の使命だと思います。